夕刊 磐城新聞
三月二十三日發行
定價 一ヶ月金六拾五錢
發行所 磐城新聞 合資會社
(日曜祭日翌日休刊)

兒童の個性は『母の手』で 下

伊東重夫

これは、私達の祖先代々が、繰り返した『お母さん』の姿です。當りまへの事で何んでもない事かも知れませんが、わが兒に、人間として必要な一切の教養を與へた『彼女達』です

育兒に對する、この熱情と努力は、種族の保存のために、自然が與へたのだと進化論者は說いてをります

ですから、母性愛は、時に、盲目的であり、動物的な一面があつて、その切實さは、最も自然な存在です

『お母さん』こそ、世の中の誰よりも、獻身的で、犧牲的な、熱情と努力を、わが兒のためにそゝぐ偉大な教育者です

三、個性の教育

わが兒は、斯くありたいと希ふのは人情です。『お母さん』の育兒に對する熱心な態度を、兒童教育にまで、延長することを希望いたします

兒童が、小學校に入學すると、總べて、學校と先生まかせにする傾向がありますが、これでは完全な兒童教育は出來ません

集團教育に個性教育が、ともなつて行かないときは丁度、ガソリンの切れた飛行機の樣に、心細く、危險なものです

小學校に、わが兒が入學したら、組織的な集團教育によつて得た色々なものを家庭で、これを、個性の發展に導びくことが『お母さん』の責任でもあります

要するに、小學校は決して、個人的な、兒童の教養は與へてくれませんから、家庭で教育してやらなければならないのです。(十人十色)と申しますけれど、この樣々な個性を默殺しては完全な兒童教育は期待できないと思ひます

このことを、世の『お母さん』に切に自覺していただきたいものです

兒童の個性教育を如何に家庭で行ふか、いづれ稿をあらためて述べたいと思ひます

…小曲… 櫻貝の歎き

千鳥作

見果てぬ夢を追ふ如き
うるむ瞳の乙女あり
ちいさき胸に抱かれし
心は扉ひらく時
そは破れ易き櫻貝
人の掟の固ければ
果なく逝きぬ二ひらに
砂に破れし櫻貝

清明集

冬 鴉生

浮世繪の畫廊はのかな雪明り
雪明り香るゝ畫廊の淸

試驗日

木兎莊主人

○試驗日の發表は憂しばらくを夜のラヂオなど聞かで經むかも
○末の子の試驗勉强を援けつつ中學のわが古り事思ふ
○わが心家路に急ぐ試驗子の父が數へを待ち佗びてあらむ
○わりなしや大學生われ數學の試驗に惱む奇しき夢見る
○子に迫る試驗氣遣ふ父われにうたて日も夜も業はひ繁き
○かにかくに試驗は了へぬ家の子等も演藝ラヂオに寛ろぎ集ふ

寂光院思慕

破れし甍をもる月は
訪れのみは萱草
鳴け時鳥、今一度
庭の千草は露よりも
墨染の袖尙重し
讀經をやみて思ひのみ
あゝ過ぎし日よ、歸らざり

(平家物語より)

病氣

乾重忠

何日も藥を飲むければ
俺の病はなほらぬか
熱い吐息がほゝつたふ
ゆふべ靜かにねたいけど
顏がほてつてねむれない
何故にこんなにねむれない
飮んだ藥も無駄なのか
今日で七日になるけれど
俺の病はなほらない

泣く兒

坊や 泣くなよ 月歸らん
遠い み空で 母樣が
やさし お顏で 笑つてる
早く 笑つて 見せませう

隨筆 山の小鳥

千葉省三

島木赤彦先生の家のお座敷

障子に、冬の日がいつぱいに當つてゐました。障子の外で、小鳥が一羽啼いてゐます

その澄んだ聲が、まるで耳のはたで啼くやうに、よく透るんです

『山から來たんですよ』

先生が云ひます

冬になると、山の上に雪が降つて、餌がなくなるものですから、山の小鳥が、里へおりてくるのです

『いろんな鳥が來ますよ。この窓先へも……』

先生は、眼尻に皺をよせて、チツと、耳を傾けるやうになさいます

『小鳥の聲つて、いくら啼いても、うるさくないから不思議ですな』

障子をあけても、小鳥は逃げませんでした。瑠璃色の背をした、見馴れない小鳥でした。先生から、名を聞いたやうでしたが覺えてゐません

先生の家は、諏訪湖の岸に迫る、山の傾斜にありました

慘に

(たゞ一人店舖を構へて)

凍てし夜の妻なき吾が手ぢつと見る
飯を炊く一人の夜長佗びしかり
凍てしまゝ客ある朝の飯を食む
戀情もなく妻思ふ夜長かな

3月24日

△諸國に國分寺を置く(天平一三)△平氏壇ノ浦に潰滅(壽永四)△始て全國の戶籍調査(明治七)△パリに假名書新聞發行さる(一、八六八)△米最初の地下鐵敷かる(一、九〇〇)

講談 黃金魔 (106)

高桑義生作 樋口悅也畫

紫巾黨 (三)

初冬の夜の密談の座に、あわたゞしい取次の聲がした。主の眞木丹後は額に八の字を寄せて

『何事ちや騷がしい』

と、叱した

『はツ、大變出來いたしましたので』

と、襖の外――。

『開けい』

恐る〳〵襖を開いて、用人が平伏してゐる

眞木丹後、田沼意次に財政手腕を認められて、大阪留守居を勤めてゐる男、其處は江戸堀の眞木の屋敷である

密談の相手客は、島原屋東左衛門と彼の參謀箕部錦藏であつた

『何ぢや?』

『一揆――暴動が起りました』

東左衛門と錦藏、目を見合した、宏壯な邸宅の奧まつた處まで、市の騷擾も聞えなかつた

數千の貧民が、堂島一帶の米商人を襲ひ、破壞、掠奪、放火と大騷動でございます』

『フツム、やり居つたか』

と丹後は、東左衛門錦藏の二人に、意味ありげな視線を送つた、用人に

『それ……』

と次を促した

『暴徒は大方當地の貧民でございますが、背後に指揮する者があるようでございます』

『勿論ぢや』

『兩町奉行總出動で、暴民を追ひ散らし、首謀と見なされてゐる者、ぞく〳〵捕縛して、凡そ騷ぎも鎭まりかけましたが……』

用人はそこで島原屋の方に眼をうつし

『お客人のお店、その災害を被りました樣子遺憾千萬……』

なるほど遺憾千萬に違ひない

『遲いぞ濟んでしまつたあとでは、何にもならぬ』

と眞木はいつた

『恐れ入ります。詳しい模樣は實地調べの者が立ち歸り次第、お知らせ仕ります』

丹後は東左衛門を見て

『貴方の店は、まつ先にやられた筈ぢや、今夜の事のきつかけを作つたやうなものぢやから……』

東左衛門は苦笑した、米價釣上策をいふのである、が店は壞されても、敢て驚かぬ樣子であつた

『勿論暴民だけでは、出來ぬ事だ、貧乏人共を敎唆し彼等を指揮した者は、紫巾黨に相違ないのぢや、疾うからこの事のあるのはわしにはわかつて居つた。兩奉行の手おくれぢや。そんな事では主謀者――目ざす紫巾黨の者ども、捕縛は出來まいて。彼奴等大事を起すための資力――金が目あてぢや、江戸よりもこの大阪――仕事は仕易い。黃金はゆたかぢや。一味の者は、わざ〳〵江戸から上つて今日の機會をねらつて居つたのぢや』

丹後の言葉の切れ目を待つやうに、東左衛門は錦藏を顧みて

『どうであらう?稻荷山の家の方は……』

『なるほど……』

と錦藏は

『何とも申せません』

東左衛門の顏色がさつと變つた、稻荷山の別莊――そこにはお染がゐる。黃金とは別個の存在だ。彼は不安らしく腰を浮して

廣告

坊やの名前
春風と一緒に生れた可愛い坊やの姓名學で名前をつけりや日毎にふとつて丈夫にそだつ一生幸福よい名の坊や
日本姓名學東北支部長 鵜沼孝昌 平紺屋町三六

素人料理 天下一品 マツイ おでん 榮ちやん 平町新田町 電話三三番

共存共榮 簡易ノ金融 趣味ノ貯蓄 誠意堅實 平町 磐城無盡

高久病院 院長 高久忠 平町田町電五一三

雛人形特價賣出し
桃の節句が近づきました。東京一流のデパート陳列の最新型木目込人形各種取揃ました。どうぞ御覽下さい、他店に類の無いお伽噺の最新人形も澤山陳列致してお客樣をお待して居ります。
平町四丁目角 菅野屋商店 電話一五七番

特製雛人形賣出し
御殿親王付
古代風替りヒナ
十五人揃人形
尙御進物用に桐箱入浮世二人立四方ガラス入替り人形御道具類の新型を澤山取揃へました。せひ御覽下さい、特に勉强致します。
平町三丁目 金太郎玩具店

洋服大特賣
男女用學生冬服豊富に取揃
洋服は高島屋
注文並に既製品 高島屋洋服店 平町二丁目電話三八六番

耳鼻咽喉科專門
病室完備 自炊ノ便アリ
平町田町(電六九一)
山内醫院 醫學士 山内亨吉

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町二丁目 和久井屋 電四〇五番

新入學用品陳列
健正ランドセル 通學用運動靴
學生ボーシ 手提カバン 其他
●堅牢本位に嚴選せる優良品揃●
ヤルツ
平四 電一四〇

着荷致しました
呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專學校門御用
吸入用酸素
體溫計(メートルグラス)
御用命次第迅速に御届け致します。
處方箋調劑所 平町古鍛冶町縣社ノ下 阿康藥局 電話四四番 振替口座 東京三〇〇六五

食事、喫茶、酒場を兼ねた
春のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
院長 醫學士 金森五郎 電話九二五番
入院隨時

社員採用
固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歷書持參本人來談
平町鍛冶町十八
公債 社債券 現物賣買 擔保貸附
日本商事株式會社平支部

生徒募集
第一學年 壹百名
第二學年 若干名
受驗科生 若干名
出願期日 四月四日まで
新學期 四月四日より
創立卅年……
學費低廉、獎學金の給與、基礎益々鞏固、内容年と共に充實、鐵道其他受驗講座特設
平町城山 磐城青年學校

月曜論壇

復湯計劃の背

湯本温泉復活問題は、同地をして以前の殷賑に還らしむるには、此際最大可能の投資を躊躇すべきで無いとする町區聯合の企劃に對し、所謂復湯計劃もさる事乍ら、此種未必の大事業に就き、將來容易に蓄積を望み得ざる巨額の區有財理を傾到するは、或は乾坤一擲の不結果を招く場合無きを保し難いとする一部反對論者との相剋が最近漸次尖鋭化し來つたのは、終始一貫輯睦協調の下に郷土福祉の助長を念とせねばならない同町民間の抗爭として眞に遺憾に禁わざる處である

而も同町の現狀は、將來必ずや有限的に終止すべき炭礦の衰滅後に備ふべく、豫め所謂百年の大計を樹立せねばならぬ重大時機に當面して居り、この復湯計劃も之の意味に於て中堅鄕黨の智能を總動員して到達した明日への鐵案なると共にを一種の投機的企業として其の成果に或る程度の危險率を感じつつある反對論も之亦均しく愛町の至誠に基調するものと觀るべきであるが、前者は少くとも專門家の檢討考覈を經た科學的根據を有する立論であり、後者は地下の自然を征服せんとする事業の困難から其の蓋然性を疑ふ常識論で、殊ゝ反對の動機には或種の感情問題が少からず加味されてあるらしい事は、假りに實際に於ては極めて眞摯なる態度に出るものとしても之が爲その所論が常に驕逸に墮し甚しく重厚性を缺くの不利を招徠する場合無しとせぬので、牢固たる信念に基き對手方を反駁せんとするに方つては須く科學的根據を提げ堂々之に肉迫するに非んば、努力は即ち貴重すべきも事業としては頗る粗笨の譏りを免れないと思ふ、この見地からして問題の解決には飽迄感情を離れ、談笑の裡に研究を進めて徹頭徹尾町民の幸福を根幹とし細心周到の注意を以てより誤り無く嚮背を決せねばなるまいと思ふ

火力發電所設置の鍵を秘め 松井東北振興事務局長來郡
あす平町附近を視察

東北振興電氣協會總會に出席する松井東北振興事務局長は、廿一日夜上野發二十一、二十二の兩日休暇を利用して沼尻でスキーを樂しみ廿三日平町に赴き廿四日常磐炭礦を視察して出廳、縣廳・興銀支店を訪れ飯坂温泉に一泊、廿五日仙臺に開かれる東北振興電氣協會總會に出席するが、同局長が常磐炭礦を視察するのは東北振興事業として要望されてゐる火力發電所設置の候補地として平町附近が有望視されてゐるため序を利用し下視察をなすことになつたもので同局長の視察結果に地方民は多大の期待と關心を拂つてゐる

保險料率引下運動
近く委員一行が陳情

平町の一般保險料率引下運動は既報の如く消防設備の擴大等を擧げた理由書も出來上つたので愈々關係各方面に陳情する事になり町では來る二十八日頃これが委員會を開き種々陳情に關し協議する事になつた

低温と降雪で 例年にない不作 麥は
神谷農試分場の調査

神谷農試分場昨廿一日春分當日調査にかゝる麥作々況は左の如し

種別	草丈	莖數
大麥早生	○、三二尺	七一本
同中生	○、二九	七〇
同晩生	○、二三	六八

播種後の天候は氣温例年に比し極めて低く且つ生育中稀に見る降雪のため草丈、莖數共に例年に比し著しく劣り此のまゝで推移する場合は近年稀に見る不作であらうと悲觀されてゐる

。。。。町村農事打合　郡下の町村農會役職員及び總代、各町村農事實行組合長協議は二十二日午前十時から縣主催の下に平團体事務所で開き農事全般に亘り打合せた

經濟更生の 增產計劃 實地指導
來廿六日平町で

縣經濟更生課では廿四日より廿九日までの六日間經濟更生計劃中增產計劃の實地指導を行ふ、本郡關係の分は二十六日午前九時から平團体事務所で行ふが參集町村左の如し

泉　飯野　神谷　大野　平窪各村　双葉郡久ノ濱町

方面事業獎勵金交付

昭和十年度方面事業後援團体奬勵金は三十四ヶ團体に對し二千圓を交付する事に決定したが本郡關係は平町經濟事業同一一　內郷村方面事業同六八　四倉町同一九

民衆的に碎けた 新平驛長山崎氏
今後の活躍期待さる

今回の異動により池袋驛長に榮轉した後藤讓氏の後をうけて千葉縣館山省營バス庫より平驛長に榮轉した山崎莊郎氏は來る廿六日着任すると云ふが、氏は曩に千葉縣內原驛長より館山に轉じ名だたる難治の地として町の首腦たる町長は勿論、歷代驛長等迄僅に一ヶ年內外にして異動するが常であつた同地に在任三年餘の記錄をつくり、其間終始地方省營バスの爲に盡した爲地元有志間に頌德の銅像建設をさへ計劃された人であり之の意味に於て終始地方の紹介宣傳に寧日無かつた後藤明朗驛長の後任としてこの民衆的驛長を迎ふる平町は眞に〳〵の幸福であると云はれてゐる

持米の現金化から 出荷激增（千六百俵）
あす俵米定期共販

石城販利組合の俵米定期共販は今二十三日午後から行はれたが肥料購入期を控えて持米の現金化を急いでゐる關係から出荷は左の如く千六百六十三俵の多きに上つた、尚相場は保合を豫想されてゐた

平二八〇俵　二號八〇　三號一二〇　大野二四四　小川一〇一　植田四九　玉川七二　勿來一〇三　高久一號七八　糯米一五　同四〇　神谷一〇〇　草野信用八一　飯野四五　夏井四一　平窪四八　草野農會一〇　渡邊七九

。。。。。。長岡消防幹部來平　新潟縣長岡市消防幹部十數名は今二十三日來平、消防施設其他を視察した

滿洲の野で戰死した 大平伍長に論功行賞
きのふ內閣より發表さる

長き遊りでは滿洲事變關係の滿鐵軍醫囑託戰死傷者の功勞者に對し二十日論功行賞の御沙汰あり、同日內閣より發表された、今回發表された滿洲事變關係の軍屬は七百三十名、滿鐵關係八千四百名、昭和九年四月以降の軍屬關係者は以下百四十名でその內本郡關係者は左記一名

▲死歿者　草野村　功七級旭八等步兵伍長　大平　正二

籔蛇に二年
けふ平區の判決

籔蛇の自首男住所不定無職相馬郡八幡村生れ前科二犯野木光夫(三七)に係る窃盜並に橫領事件は今二十三日午前十時から平區で中島判事係り清田檢事關與公判開廷求刑通り懲役二年を言渡された

殉職警官弔慰
濱崎父子から寄託

磐城炭礦副所長濱崎善三郎氏並に同氏長男廣太郎君、長女惠美子さん、次男胖君が金五圓を殉職警官弔慰金として平署に寄託

自動車ポンプ購入
平消防組では火防

平消防組では火防施設の完璧を期するため更に經費六千圓を投じ自動車ポンプ一台を購入する事になり十一年度にこれが豫算として半額の三千圓を計上明二十四日午前十時から警備委員會を開き種々協議す

老婆無殘な燒死
赤井の火事、消防手も負傷

赤井村大字鹽田字北澤農大平米治(七四)方から二十一日夜六時頃發火、臥床中の養母キヨ(八七)は逃げ遲れて無殘な燒死を遂げた、原因はキヨが寢床で用便中傍のローソクを轉倒した結果、一棟燒失、損害千餘圓、尚赤井村小川鄕火防組合員松本次八(三二)は消火に盡力中右手指に全治二週間の傷害を負つた

磐城地方の 樹に關する傳說
磐城民俗研究同志會　3

○源氏梅(八房の匂ひ梅)　平窪村中平窪淨勝院庭にある內藤侯遺愛の老梅は他の梅樹より遲れて開き薫香殊に高く、平城に居ながら漂ひ來る香でその開花を知り得た。賴朝が東征の折植ゑたものと傳へ、周圍八尺許りあつたが枯れて今あるのは若木である

○虎の尾の櫻　神谷村上神谷に在る古木の櫻は五石の御朱印つきの名木であつた。開花期が早い。內藤侯の方言歌がある。『木もづなし花もよんのくさいだめてよつぱら飲んで見つぺいかな』

○七本松　鹿島村走熊にあり、もと老松七本あつた坂上田村麿東征の折植ゑたものと謂ふ。內藤侯の百姓騷動の折、その主謀者の首級をこの根下にさらしたと傳へられてゐる

○源義家に關係のある樹

1曲り松　平町道匠小路に在つた。若松に義家が腰かけたところ枝が曲つたまゝに成長した木であつた

2鞍掛松　勿來關の東北の丘にあつた。義家が馬鞍をかけた。或は鞍換だともいふ

3弓掛松　勿來に在る

4母衣掛松　平町梅香町にあり、母衣を掛けた松

5日和見松　四倉町仲町妙見神社通りにあつて、義家が陣を布いた時、その日の日和を見たといふ

○九曜杉　相馬郡中村町西山にあり、供養杉とも言ひ、相馬隆胤及び從士等伊達と戰つた時その戰死者を葬つた處。また同所に姥杉とよぶ二肢の老木があつた三春城主田村淸顯が植えたものといふ

○舟を繋いだ杉　大野村黑木の諏訪神社の境內にある老杉は、昔津浪のあつた折、その梢に舟をつないださうな

○西行松　中村町松川に在り、西行がこの松下に憩ふたと謂ふ

○尾上松　松川に在り、高砂の尾上松に似て名木であつた。寛政の頃野火にかゝつて今はない

○笈掛松　同じく松川に在り、元和の頃總州の鈴木玄番といふ人が來て、笈を掛け地勢を相して鹽田を開いた

○一本松　原町に在り、慶長の年、相馬義胤野馬を追ふ時、一匹の暴れ馬義胤に向つて來たから、斬り捨てゝ埋めた標しといひ、其他にも說がある

あす三小學卒業式
小さき胸に燃ゆがく　志望の數々！

卒業を明日に控へた平三小學校兒童は總計八百名、內尋常科五百五十名、高等科二百五十名でその志望別は左の如くである

	第一 尋	第一 高	第二 尋	第二 高	第三 男	第三 女
在籍	一九一	九〇	三三七	一〇〇	六〇	六五
中學	六五	四	｜	｜	四	｜
高女	｜	｜	九三	五	｜	四
商業	五	｜	｜	｜	四	｜
其他中等	二	一五	｜	三三	｜	｜
高小	七〇	｜	一三〇	｜	二四	四五
其他	三	一七	一四	一三	一五	六

無缺席健康兒
女が斷然多い

卒業兒童中六ヶ年又は八ヶ年無缺席で賞狀を授與される健康兒左の如く女子の數が斷然多いのは注目に價する、尚昨年は男十四名、女二十一名であつた

第一校

△六ヶ年精勤　山崎春男　木下藤三　猪狩不二男　酒井二郎　新妻唯男　遠藤好一　齊藤修三　海老根鐵也　中島光吉　眞田八郎

△八ヶ年精勤　松崎富夫　東條正一　栗山正勇　山本愛之助　丹野武彦

第二校

△六ヶ年精勤　佐藤マリ子　馬上文子　格和民代　宍戶勝子　田口ツマ　坂本勝子　新妻英子　須賀井初惠　酒井良子　花澤アヤ子　大庭市子　松本ミサ　秋山アサ子　鈴木和子　鈴木芳枝　鈴木美津子　猪形幸子　關內敏子　猪狩ミイ　笹目久子

△八ヶ年精勤　白土サト　齊藤幸子　青戶ヱク　南部敏子　早坂敏子　大和田シノ子　萩喜和子　八卷ヒデ子　栗田ケイ子　日下部喜代子　佐藤操

第三校

△六ヶ年精勤　鈴木醫　猪狩侯夫　眞柄秀八郎　鈴木高光　菅野卯之吉　野澤登記子　林荷子　持丸クニ子　大槻きよ　佐藤カツヱ　遠藤英子

光！は闇より
磐城訓盲院を巣立つ　努力の人戶田德次郎君

平町磐城訓盲院卒業式は二十二日午前十時から擧行したが中等部卒業生は左記五君、閉式後同窓會主催で送別會を開いた、新卒業生のうち戶田德次郎君(三九)は陸軍步兵一等兵、去る滿洲事變當時出征、匪賊討伐に參加した勇士だが銃砲手入れ中僚友の不注意から彈丸で兩眼を失明、その後盲人として自活の道を講ずるべく同院に入學四ヶ年の勉學報ひられて今日の喜びを得た努力の人である

戶田德次郎　遠藤[illegible]　玉置清吾　井戶川次雄　阿部二郎

鐵砲玉親爺
伜から平署へ

茨城縣久慈郡小里村大字大中菊地安之介(五二)は去る四年二月中伜いの等を置き去りに無斷家出し其後双葉郡上岡村大字本岡猪狩武夫方より二、三回通信あり郡內に移住したらしいからと二十三日伜の和夫から平署に搜查願

天氣豫報（小名濱測候所觀測）
今晩は北西の風曇後晴
明日は北西の風薄曇

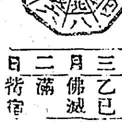
。。。。。愛國子女團發會　平町八幡小路磐城家政學園では明二十四日午前十時から愛國子女團(愛婦人會所屬)の發團式を擧行する

。。。。鹿島信組總會　鹿島信用組合總會を來る二十七日午前十時から開き決、豫算を附議、配當二分

空腹のため
哀れ少年行倒　直に親許渡し

二十一日朝平停車場前で行倒れた一少年があつたので平署で取調べると伊達郡茂庭村大字中茂庭の炭燒業山田久三の伜で銀三(一二)であることが判明、平署から飯坂署を通じて父親に對し少年の引取り方を通知した、少年は尋常四學年で中途退學し身賣りされその後各地を轉々してゐたが最近逃げ出して來て空腹のため倒れたものだと云ふ

二十四日（小名濱測候所調査）
日出　五、三六　月出前　五、四六
日沒　五、五二　月沒後　七、一八
滿潮　前四、〇〇　後四、四五
干潮　前一〇、四〇　後一〇、五五



舊三月二日
火曜　乙巳　佛滅　滿　胃宿
新三月二十四日

吉判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　何物も妨ぐること能はざる際運日起業大吉▲二黑　心身共に落付かず旅行移轉企業等何れも凶▲三碧　手紙書付ひ人の手に殘る物には注意▲四綠　苦は去りて追々と樂に向ひ來る日金談は凶▲五黃　油斷すれば逆行し易き日金談或は約束事凶▲六白　內に英氣を發ふて輕擧妄動は戒むべし▲七赤　事成るに近づきて瞬間に破敗を生じ易き日▲八白　氣分なんとなくに陷り易き日無理なすれば損あり▲九紫　心のくもりは取れて愉快に物事の運び行く良日

中等教科書　國定教科書
カバン、手提類　小學生、ランドセル　中學校指定背嚢
書籍各種學習用參考　各種全科類　豐富に取揃へました
マルトモ・柴田書店　電話　二三四番　二三四番

耳鼻咽喉科 高柳醫院
平驛前（電三三六）
醫學博士 高柳博明
（入院應需）（自炊ノ便アリ）（看護婦募集）

產科婦人科 五十嵐醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番

（入院應需）
產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

內科外科一般　花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九